

『肉まん和味噌汁の飲み比べタイム』
 《保育園のかつお出汁》と《市販の顆粒出汁》を飲み比べ
 化学調味料が沢山入っているよね！！
 給食室の1日も映像で見て、どんなことを大切に
 給食を作っているのか伝えました。



『参加した職員からの感想』

砵でのクッキングは、初めてだったけど楽しかったです。
 「切る、混ぜる、こねる、包む」をみんなでやる中でこれを子どもたちがやると良い経験だなと思いました。
 肉まんが出来た時、「できた～」と感じたので、保育の中で子どもたちにも「みんなで作って出来た！！楽しい！！」という経験をしてほしいなと思いました。箸のこと、出汁のこと、食品のことなど知らないことも多かったのでわかりやすく伝えてもらえてよかったです。給食の一日の様子などもなかなか見ることが出来なかったもので、日々大変な中、連携を大事にしながら頑張っていることが伝わってきました。それでも食事を見に来てくれたり、食事のことを考えてくれたりして、助けられていることもたくさんあるので、これからも保育・給食ともに連携していけるといいなと思いました。大変な中での企画準備お疲れさまでした。ありがとうございました。 鈴木 T

親子クッキングする姿をみて A くん、B くんもこんな感じでクッキングしているのかなと想像しながら作っていました。保護者向けにこんな機会があったら、「家族と一緒にクッキングする余裕がない人にとってはとても貴重な時間になるだろうなあ」、「やるなら保護者会をしている時間帯がいいのかな」等々の話を先生たちとして帰りました。お箸の見本はやっぱり実際に使ってみて感じることや気づくことが多いと感じました。購入ありがとうございます。懇談会や面談で活用したいです。給食室の一日を映像で見られたこともよかったです。今回参加できなかった他の職員が見る機会もあるといいなと思います。 明田 T

参加してみて、まずは楽しかったし美味しかったです。クッキングは自分でしたことが形となって返ってくるので、子ども達にとっても達成感や充実感を得やすい活動だな～と改めて感じました。「包んだ時はあんなに小さかったのに、蒸したらこんなに大きくなるんだ～！」と、今更ながら発見もあり嬉しかったです。また、エジソン箸を実際に手に取って使ってみたり、実体験を通してどういうものかを感じられたことで、やはり推奨できるものではないと確信できました。

子ども達も含めて和気あいあいのいい雰囲気な会となり、とても良い取り組みでした。来年度は新人さんも多いので、改めて給食が大切にしていることを確認することが必要になると思います。今回は土曜日ということで可能な内容だったのはありますが、参加できなかった人も多いかと思うので、内容を絞って職員全体でも押さえなおせる機会が作れるといいと思いました。企画して下さった給食職員の皆さん、ありがとうございました！ 西田 T

2019年度中堅層研修を行いました！



本年度より中堅職員を対象とした、法人独自の取り組みとしての研修がスタートしました。今回の『たまふく』では、2019年度に行われました多摩福祉会中堅層研修の全3回の内容についてお知らせします。

本法人は、4保育園3学童施設を運営しておりましたが、2020年4月には新たに1か所の学童施設の運営をスタートさせました。多くの地域と施設において、より質の高い保育・学童育成の保障と実践の展開・発信など、浦辺先生のミッションの継承がなされてきた一方、その経営・運営・実践を担っていく人材育成が課題となっています。

今回スタートした中堅層研修では、そうした課題にも自分たちの力で道を切り開き乗り越えていくために、当事者である中堅職員たちが委員会を作り、アンケート調査なども行いながら「自分たちが学びたい事」を土台に作り上げてきました。

第1回

第1回目はこれまで長年こぐま保育園で働いてきた谷まち子こぐま保育園園長に、「施設運営で大切にしてきた事」と「子どもを真ん中においた集団作りと人材育成」という点で話をしてもらいました。
 自身の若かりしころの失敗談も、それをどう乗り越えてきたのかについても明るく話してくれ、大きな学びとなりました。



また後半は、グループワークを行いました。3つのテーマを基に保育の中で「どんなことを大切にしているか？」「若い職員とクラス集団をつくる時にどんなことを大切にしているか？」などについて情報交換を行いました。子どもの姿や保育での悩みなどもたくさん話され、「うちではこんなことしてるよ！」など明日からの保育につながる会となりました。

子育ては一人じゃない！

永山学童クラブ 船越 久美子
(現：貝取小学学童クラブ職員)

子どもが生まれて仕事に復帰してもうすべし1年。赤ちゃんを育てながらのお仕事って、周りの助けがなければなかなかうまくできないんだなと感じた1年でした。

私は子育てをしていくなかで子どもの突然の熱や体調不良で仕事を休んだり早く帰ったりや、病院に連れていくために出勤が遅くなることも多くなりました。学童クラブでは普段の育成に加え行事も

～働きながらの子育てとは～

<船越家プロフィール>

- ・母 永山学童クラブの放課後児童支援員(法人歴5年目)
※4月からは貝取小学学童クラブへ異動
サッカーやスポーツが好き。面倒くさがりやな母親1年目
- ・父 上北沢こぐま保育園の給食調理(法人歴3年目)
テニスなどのスポーツが好きで家事育児をよく手伝ってくれる父親1年目
- ・娘 こぐま保育園の0歳児クラス
食べたり、踊ったりがだいすきな1歳半の娘

あり、その担当を任せられるのですが、放課後の短い時間で子ども達と話し合いをしなればいけない時に参加できない時もありました。さらに私の場合は、娘の病気がうつり持病の病気も悪化して1週間以上休むこともありました。有給休暇はすべくなくなり、「もう休めない」「学童クラブ職員の仲間に迷惑をかけられない」「負担だと思われてしまう」とか娘に「もう熱は・・・」と思ってしまうこともありました。保育園で菌がうつら



いました。きっと子育てをしているお母さんやお父さんは自分の子どものことで休む時は、自分は元気で仕事をやるのに本当に申し訳ないという気持ちと、「我が子に対して早くそばにいて治してあげたい」という思いで複雑な気持ちなのではないかなあと思います。

私は一度職場でその気持ちをぶつけたこともあります。施設長ともケンカになりましたが、自分の気持ちを言えたことと、ごだけ職場の仲間が私の家族のことを心配してくれたかがわかり、話した後「休む時は休む」と割り切った気持ちになれるようになりました。それからやはり仕事も大事だけれど子ども第一に考え、娘の体調が悪ければ「きり休ませてください」と言うようになりました。職場の仲間も本当に優しく「休んでも大丈夫だよ！あとは任せてね」などの言葉をもらえる本心に安心して休むことが出来ました。仕事が出来ないのもややした気持ちになったりするけれど、やはり我が子を大切にしなければいけないと感じました。

また、私の夫は同じ法人の上北沢こぐま保育園の調理師で、保育園では子どもの人数の多さや、育成の時間や体制が学童クラブとは全然違うこともあり、急な娘の体調不良などに対して勤務調整が難しく、基本的には私がお迎えや娘の通院の付き添いをしていきます。

そこが辛いと思う時もありますが、同じ法人のため、私のことや持病のことも夫の職場の方は知ってくださっているので、きつい体制でも夫に「奥さん体調大丈夫？」「休んで大丈夫だよ」などの言葉をいただき、上北沢こぐま保育園の職員の方には助けていただいています。土曜日出勤の日などはどうしても私も休めない、夫も休めない、でも娘は体調が悪いから保育園には連れていけない。そんな時には実家のじいじとばあばと姉に都合をつけてもらって預かってもらっています。

実家の助けがなければ私はきっと今のように仕事をすることはできなかったと思います。やはり復帰したての頃は「家事・育児・仕事全部頑張ってるやんなきゃいけない」と一生懸命にやろうと思っていました。が、何かを一つ頑張ると何かは少しおぼたりになるのかなとこの一年で学びました。「周りに助けてもらわないと、子どもも自分も辛いんだな。」「全部を一人でやるんじゃないよ、どこかで力を抜いて助けてもらいながら私はこれからも頑張っていく」と今では思うようになりました。

私はできる母親じゃありません。むしろ何もできていないかもしれません。だけど周りのこぐま保育園の先生、学童クラブのみんな、パパ、じいじ、ばあば、姉のみんなに助けてもらいながら家族で楽しく幸せに毎日を過ごすことが出来ています。家族のために、助けてくれる周りの人のためにも頑張っていくっていいと思います。

みんなの子育て奮闘記

子どもと一緒にいる時間

法人事務局長 清水 芳之

本部の事務局長を務めています清水と申します。多摩福祉社会のお世話になり3年になります。入職して最初の2年間は上北沢こぐま保育園で勤務をしていましたが、昨年の4月に法人本部へと異動となりました。

4歳の息子と1歳9ヶ月の娘がおり、子どもの成長を楽しみながら日々の生活を送っています。育児・家事の分担当については、家庭内で詳細を決めているわけではなく、手が空いているときに出来ることを行っています。

具体的には、平日は帰宅をした後、ご飯を食べさせ、家の掃除をし、お風呂に入れ、歯を磨き、絵本を読み聞かせて寝るのが日課です。子どもが寝た後に仕事の準備などを行いたいのですが、かなりの確率で子どもと一緒に寝てしまっています。

お陰様で、私が小学生であった時以来の早寝早起きの規則正しい生活が送れています。

転職前も同じ福祉施設の事務職として働いていましたが、そちらでは長時間勤務が常態化しており、早くても22時、日によっては24時を超えて帰宅することが間々ありました。以前の働き方を続けていた場合、子どもと接する時間は休日のみとなってしまつので、多摩福祉社会で働かせて頂いていることに大変感謝しています。

経験則からも、働きながら子育てをするにあたっては、やはりワークライフバランスがとても重要だと感じています。昨年度、法人として一般事業主行動計画を策定しました。一般事業主行動計画とは、次世代育成支援対策推進法に基づき、職員の仕事と子育ての両立を図るための雇用環境の整備や多様な労働条件の整備などに取り組みむに当たり、目標及び対策を定めるものです。当法人では、これまで職員の仕事と子育ての両立のために、短時間正職員制度や健康管理休暇の導入など様々な取り組みを行って参りました。



今回策定した行動計画では、これらの制度を職員へわかりやすく周知するとともに、職員からのニーズを調査することで、より働きやすい環境整備を行うことが目標としています。子育てをする際に一番大切なものは、子どもとの時間(コミュニケーション)だと実感しています。子どもと一緒に笑って泣いて怒って・・・様々なことを一緒に経験することにより、子どもも親も互いに成長しあっているのです。その時間を確保する為に、法人としても、職員が仕事を行いながらも家庭での時間が十分に取れるよう、今後も継続して取り組んで行く必要があるものと考えています。

